



2021年号外

発行人

静岡同窓会

静岡市葵区田町7丁目90番地
電話 054-221-7030

編集人

静岡同窓会
広報委員会

題字 下村勝彦氏

この度令和3年3月26日同窓会本部役員会を開催し、役員人事について赤石文男氏から会長辞任の申し出があり、新会長に下村勝彦氏を選任いたしました。本来ならば総代会、総会を経て承認されるところコロナ禍で総代会、総会を中止することとなりましたので、紙面をもちましてご挨拶をさせていただきます。



「第12代同窓会会長・退任にあたり」

前同窓会会長 赤石文男(第65回卒)

昨年5月、櫻井武雄(第40回卒)第10代会長が亡くなり、9月には平野健市(第60回卒)第11代会長が相次いで亡くなりました。古武士然とした櫻井会長、野武士然とした平野会長、お二人の会長に薫陶を受け、同窓会活動が出来ました事感謝しています。

私が同窓会活動に参画したのは、22年前、平成10年10月10日の百周年記念事業が終わった翌年でした。記念事業として、上下巻合わせて1,564頁に及ぶ「静岡・百年史」が編纂されその歴史を受け継ぐ重大さに身構える思いでした。

2008年の「110周年記念事業」の一環として、版画家「海野光弘(第59回卒)記念館」を開設し、静岡在学中に作成した版画作品集「かえる」を中心に海野作品を展示し在校生・教職員に日常、接してもらいたいとの思いでした。富坂現関西支部長からは駿府城公園内堀にある「静岡ゆかりの地」の記念碑を修復して欲しいとの声がありました。昭和39年(1964)第4代青島同窓会会長を代表として建立した記念碑も44年が経ち傷んだ箇所もあり修復整備しました。昭和19年から20年間・静岡の校長を勤められた佐藤行蔵校長の胸像が応接室に眠っていました。2021年6月・正面玄関で顕彰式を行い、大村政夫先生が制作した「佐藤行蔵校長胸像」と「登山の像」も並べ佐藤校長恩顧の先生方にもお集まり戴き思い出話で盛り上がりしました。

120周年記念事業のテーマは「静岡・歴史と文化の足音」でした。「版画家・海野光弘と彫刻家・大村政夫先生」の市役所・市民ギャラリーでの展示会、静岡から大村先生の作品をお借りしてのギャラリートーク・静岡音楽部と静岡児童合唱団との共演。

駿府城公園の静岡発祥の地「120周年記念碑」の前に「静岡ゆかりの地・120周年記念碑」を建立し、現下村勝彦同窓会会長が碑文を刻みました。

元二科会会長「北川民次」の絵画贈呈式には百周年記念誌編纂の中心的役割を果たした伏見勝先生も駆けつけてくれた。きっかけは1913年(大正2年)卒業時の学友会誌の中に北川民次の「2時間半」の論説が載せられていた事による。知れば知るほど「静岡」の奥深さを感じる。これが伝統と言うものか・・・

伏見勝先生を中心に6年の歳月を掛けて編纂された「百周年記念誌」、ページを捲る時改めて大きな財産を残してくれた事に感謝し、明治・大正・昭和・平成・令和と「静岡の歴史と文化」を連綿と積み重ねてきた同窓生・教員の皆様の情熱と進取の精神に敬意を表します。



「第13代同窓会会長・就任にあたり」

同窓会会長 下村勝彦(第62回卒)

この度、第12代赤石文男同窓会会長の後を引き継ぎまして、第13代会長に就任することになりました。120年の歴史を重ね、更に新たな歴史へ向かい歩み出した名門静岡商業高校の同窓会会長をお受けすることは、身に余る光栄であると共に身の引き締まる思いです。

私が静岡同窓会活動に関わる事になったのは、昭和63年の創立90年事業で平野健市祝賀委員長の下で副委員長を受けてから33年目となりました。この間、杉山徳次郎会長から片山敏郎、櫻井武雄、平野健市、赤石文男会長まで5代の会長のもと、100周年、110周年、120周年と3回の記念事業にも関わってきましたが、こうした大きな事業を達成する為に、同窓会役員はじめ各委員会の皆様、同窓会員の皆様が先輩・後輩の年代の分けなく、和と絆の大きさ、強さで大成功に導いていただいた熱意に深く感銘を受けると共に、こうした経験は自分の人生にとって大きな財産にもなりました。

静岡同窓会報の第1号が発行されたのは、平成3年9月30日でした。それまで「静岡会だより」を発行していました。静岡会は部活振興、学業の活性化の為に昭和61年10月にPTA、学校、同窓生の3者で構成し設